

## 『時をかける少女(新装版)』(2006年)

筒井 康隆／著 角川書店

芳山和子は放課後、同級生の深町一夫、浅倉吾郎と理科教室のそうじをしていた。和子はそうじ道具をしまおうと、隣の理科実験室に入ろうとした。すると、誰もいないはずの理科実験室からガラスの割れる音がする。和子は気味悪く思ったが、思い切ってドアを開けた。すると床に壊れた試験管があり、あたりに甘い香りがただよっていた。和子は不意に意識を失い、次に目を覚ました時から、和子の記憶と時間にズレが生じていた。



## 『七回死んだ男(新装版)』(2017年)

西澤 保彦／著 講談社

高校生の久太郎は、同じ一日を九回繰り返す体質の持ち主です。繰り返す日は自分では選べず、突然にやってきます。また、同じ日を繰り返す中、そこで久太郎が何をしても、出来事が大きく変化することはありません。ところがある日、資産家である久太郎の祖父が後継者を定めるべく親族が集まった日、祖父は何者かに殺害されてしまいます。偶然にも体質が発露した久太郎は、九回訪れる一日の中で、なんとか祖父を救うために奔走します。



## 『フィッシュストーリー』(2007年)

伊坂 幸太郎／著 新潮社

ある晩、男は車の運転中に昔読んだ小説の一節を思い出した。別の時代、同じ飛行機で隣同士に乗り合わせた男女が、文庫本を通して会話を始めた。共通しているのは『フィッシュストーリー』。解散した伝説のロックバンドの楽曲タイトルでもある。これが時空を超え、それぞれの『正義』になっていく。最終レコーディングに挑むバンドメンバーはその事を知る由もなかった。



## 『時をかける眼鏡 医学生と、王の死の謎』(2015年)

榎野 道流／著 集英社

母の故郷のマーキス島を訪れた西<sup>さいじょうあすま</sup>條遊馬。人気がなく薄暗い「法医学博物館」を訪れたはずの遊馬だったが、気が付いたら時代を越えて過去の世界に飛ばされていた。過去の世界で無実の罪を着せられて投獄されてしまった遊馬。そこで出会ったのはロデリックというこの国の皇太子だった。彼は父親、つまり国王を殺害した罪で投獄されていた。遊馬はロデリックの家臣に彼の無実を証明してほしいとたのまれてしまう。



## 『霧の夜の戦慄～百年の迷宮～』(2009年)

赤川 次郎／著 角川書店

突然の交通事故で父親を亡くした綾は、スイスの学校に留学することに。スイスで綾は急に意識を失います。気がつくと、ヴィクトリア女王の時代、有名な「切り裂きジャック」におびえるロンドンにいました。そこで綾は「アン」とよばれて生活していました。アンの父親が事件の捜査に関わっていたところから、綾はジャックをつかまえようと動きはじめます。その間も意識は現代と過去を行ったり来たり。綾は無事でいられるのでしょうか。



## 『君と時計と嘘の塔』(2015年)

綾崎 隼／著 講談社

主人公・杵<sup>きじょうそうし</sup>城綜士は高校2年生。ある日、綜士は、好意を寄せる女の子が死ぬという夢を見ます。寝覚め悪く登校した綜士を待ちうけていたのは、驚愕する現実でした。親友が消えていたのです。綜士以外のクラスメイトは誰も親友のことを覚えていません。まるでこの世界に初めから存在しなかったかのように…。何かがおかしい。戸惑う綜士に声をかけたのは、時空の歪みを追跡する「時計部」でした。本作はシリーズ全4巻の1巻目です。

